

創薬ゲノム 異分野DBを連携検索 阪大がデータグリッド技術

大阪大学大学院情報科学研究所の松田秀雄教授らは13日、疾患、ゲノム、たんぱく質、化合物など異なる11個のデータベース(DB)を分散された状態のまま連携検索し、単一のDBのように扱えるデータグリッド技術を開発したと発表し

た。ゲノム創薬で必要となる異分野DBでは、分子などの名称、表現方法が異なり、そのままでは各DBの情報を結び付けられない。このため異分野の情報をより上位の情報で相互関連付ける方法を開発した。

例えば薬物の標的となるたんぱく質を入力すると、薬物候補の低分子化合物候補を探索して提示できる。研究成果は16日から米・フェニックスで開催される国際会議「スーパーコンピュータインケ2003」で発表する。

開発したデータグリッド技術は、グリッドコンピュータに接続しているコンピュータを共有し、一つの仮想的なコンピュータとして利用する形態。技術の一種であるデータグリッド技術(OGSA-DAI)をベースに開発しており、既存のDBが使えるメリットがある。利用者が各DBの所在を意識することなく効率的に検索できる。